



# 一般社団法人野のゆり

代表理事 須藤九二子 / 理事 平形洋司 / 理事 佐藤美恵子 / 社員 須藤修  
(山形県鶴岡市)

社会貢献者全国表彰受賞を皆川治・鶴岡市長(右)に報告する須藤代表理事(中)、平形理事=2024年12月、写真提供: 荘内日報社

# YELL

Vol. 31

里親から  
ファミリーホームへ  
社会的養護の必要な  
児童を養育

「行ってらっしゃい」と「お帰りなさい」のあいさつを同じ人から。そのような理念で、社会的養護の必要な子どもたちに家庭的で温かな養育を行っているファミリーホーム(小規模住居型児童養育事業)があります。山形県鶴岡市の「一般社団法人野のゆり」です。

理事長の須藤九二子さんは、我が子の子育てを終えた後、里親となり、夫と地域の福祉の専門家とともにファミリーホームやステップハウス、障害者グループホームを設立。20年以上にわたる社会的養護児童の育児と、成長した若者たちの継続的な支援を続けています。「鶴岡のマザーテレサ」と呼ばれる須藤さんは、野のゆりの同僚とともに温かて安心できる地域づくりに取り組んでいます。



代表理事の須藤九二子さん(右)、夫の修さん

## 慈愛に満ちた養母の姿 「育てることに血縁は 関係ない」

須藤さんが里親になった背景には、その生い立ちが大きく影響していました。

須藤さんは北海道で生まれ、育ちました。実父は病弱で生活に困窮していました。そのような状況を見かねた祖母が、須藤さん子どもをいらない親戚のもとへ養子に出しました。実父は須藤さんが5歳の時に病気で他界し、実母は4人の子どもを抱えてシングルマザーになりました。小学校3年生で漢字が読めるようになった頃、「配給カード」の自分の名字が両親と異なっていることに気づき、両親が養父母で、親戚の女性が実母であることを知りました。



庭にタープを張って和やかに過ごすひととき

慈愛を持って接してくれました。『本当に親だったと思います』と振り返ります。

実は養父は須藤さんにいらだちをぶつけることがありました。その不条理に耐えかねて、中学3年の頃、実母のもとへ「家出」します。自らの強い自尊心を自覚した出来事でもありました。これをきっかけに、養父は自分の弱さを見せるようになります。翌年、須藤さんは岐阜県の有名な繊維会社に集団就職します。就職した後、須藤さんは、汽車のデッキに立つ養父の夢を見ては涙しました。養父は牧場に日雇いで行ったときにもらうお菓子を必ず須藤さんために持って帰って渡してくれました。須藤さんの兄は「九二子が一番とっちゃん（お父さん）に可愛がられた」と。愛憎が交差する人間の二面性を持った養父。今は「養父も養母も愛する存在でした」と回想します。



子どもたちの誕生日を祝う手作りのケーキ



富士山の大自然を満喫した屋外活動

## 『橋のない川』を熟読 キリスト教受洗

須藤さんは中学生の頃から、人生の不条理や差別、困難などの問題に関心があり、被差別部落の人々を描いた住井すゑの『橋のない川』を熟読。毅然と差別に立ち向かうヒロインの姿に感銘を受けました。その頃は、実父が朝鮮半島から来たことで差別を受け、苦労したことも知っており、「同じ日本人同士なのにどうして差別をするのだろう。理解できない差別への矛盾」を感じていました。

10代の終わり頃、東京に移り、実の姉と同じ会社に就職。一緒に会社の寮生活を

送りました。その寮の隣に、キリスト教の教会がありました。

ある冬、クリスマスシーズンに、教会の前で焚き火をしながら信者さんたちが讃美歌を歌っていました。幻想的な焚き火の灯と、美しい讃美の声に魅せられた須藤さんは、やがて教会に通うようになり、そこで信者の1人で、山形県鶴岡市から東京にアルバイトに出てきていた須藤修さんと出会い、お付き合いが始まります。

その後、須藤さんは両親の介護のため北海道に戻り、その間の遠距離恋愛を経て、2人は結婚。鶴岡市で修さんの実家のクリーニング店で働きながら、3人の子どもを育て上げました。



里子さんから須藤さん夫妻へのお礼のメッセージ



## 里親になることを決意

まだ20代の須藤さんは訪れた市役所の窓口で、偶然にも三つ折りの小さなチラシを手に入れます。「あなたもなれる 養育里親」。

「里親という2文字がとても印象的で、何の気なしに手にしたのですが、読んでいくうちに『いつか私も里親をやってみたい』と思い始めました」。すでにクリスチャンになっていた須藤さんは「自分の生い立ちもあり、また、慈善活動に関する意識もあったのだと思います。私の養父母を思えば愛情を持って子どもを育てることは血のつながりは関係ないと思います」と話します。

そして須藤さんは自分の子どもたちが成長するまで修さんに里親制度の話をし続け、子どもたちが成長した後の2002（平成14）年、里親に登録。翌年には初めて、小学生の男の子の里親になります。マザーテレサの「あなたもこの世に望まれて生まれてきた大切な人なのですよ」を指針に5年間の養育経験を経て専門里親に登録。当時、厚生労働省では里親制度を拡大する方針を打ち出しており、須藤さんの里親としての活動は、社会的なニーズにピッタリ合った流れでした。

## ファミリーホームから ステップハウス、 障害者のグループホームへ

須藤さんは里親になる前に、現在の「野のゆり」があるところへ家を新築しました。

いずれはグループホームを造りたいという思いは持ち続けていたのですが、実現できるかは未知数でした。ちょうど、須藤さんの夫の勤め先が経営不振になり、夫がリストラされた時期で、建設資金もなく、家を建てるどころではない状況でした。しかし突然、降ってわいたような出来事が起きます。須藤さん夫妻の土地と家をそのまま買いたいという人が現れたのです。家は築年数を経ていたために、そのまま売ることをためらう気持ちもありましたが、買いたいと言う人はすぐ家の裏に住む高齢の女性で、終の住処として隣家も欲しいと言ったことでした。そして須藤さん夫妻はその家と土地を高齢の女性に売却、この資金を元手にして家を建てる事ができました。

この出来事を通じて「この家は自分たちだけの住まいではない。旧家が売却できて資金を得て家が建てられたのは自分たちの力ではなく、与えられたものだ」と思いました。

室内には、感謝の御言葉が飾られています。

2019年には、ファミリーホームを退所した元里子や、行き場のない若者（社会的養護出身）のための独自の居場所として、ステップハウス「For ゆう」を開設、同時に、一般社団法人野のゆりも設立しました。法人の名称は、地域の人たちと教会を建設すると言った物語を描いた映画「野のゆり」から取りました。

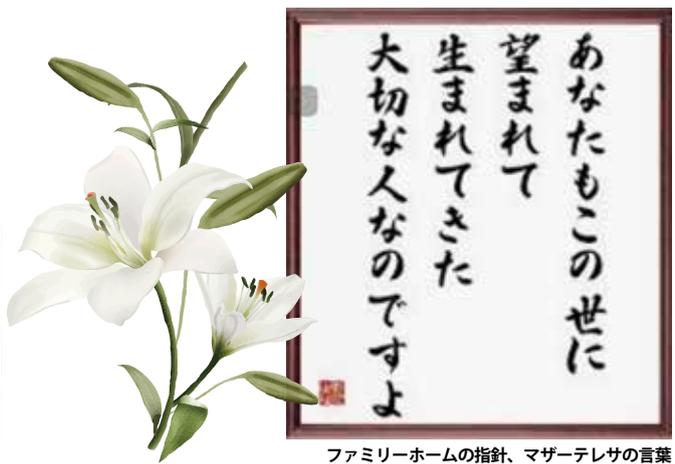
2021年には障害者グループホーム「For ゆう」を、翌22年には「You どれる」をそれぞれ開設しました。現在までに、19人の社会的養護の必要な児童を受け入れました。



障害者グループホーム For ゆう 2021年4月開設



障害者グループホーム You どれる 2023年4月開設



ファミリーホームの指針、マザーテレサの言葉

## 最初に育てた男の子が 教えてくれたこと

「これまで受け入れた子どもたち一人ひとりに、さまざまなお話を学ばせていただきました」と須藤さんは語ります。特に印象深いのが、やはり最初に受け入れた小学2年生の男の子のことです。18歳になってファミリーホームを退所した後、実家に帰って就職をしましたが、1年後、その職場を退職し、実家を追い出されてしまいました。発達障害の疑いがあり、一時期、ホームレス状態でした。そこで障害者申請を行い、宮城県内のNPO法人の「まきはファミリースクール」に預かってもらうことに。

「あの子の出来事を通じて、ファミリーホームを退所した後も、シエルト的な役割も担うステップハウスが必要だと考えました。それが『For you』『You だえ』(障がい者グループホーム)の開設につながりました。社会的養護児童の自立への道は大変に狭いです。ましてや、障害を抱える児童の自立は、さらに険しいものです。親の援助がない、寮のある就職先しか選択できない、慣れない地域で暮らす仕事をしなければならない。そもそも就職先が少なく、職場における障害に関する理解が難しいなど、たくさんの方の困難を抱えています」と須藤さん。

かつての里子で、現在は関東で働く男性が若くして父親となり、経済的な苦境に立たされたことがありました。里子の妻から長いヘルプメッセージが携帯電話へ届きます。そのSMSを受け止め、立ち直るまでその家族を支え、諭し、励まし、時には家に駆けつけて支援しました。

ファミリーホームを退所してからも挫折や苦境に遭う子どもたちを夫の修さんとともに支え続けています。

## これからの夢

須藤さんは2024年12月、公益財団法人社会貢献支援財団の「第62回社会貢献者表彰」を受賞しました。現在、ファミリーホームで里子5人の「母親」です。

「一人ひとりの事情に合わせて対応する。そこに寄り添うような形で支援をしていきたい」と、須藤さんは話します。

野のゆりでは、素材や調理方法を工夫したり、そして何よりもおいしい家庭料理や弁当を子どもたちに用意しています。ある里子の卒業式に出た時、同級生の母親が、「うちの子が、〇〇君(里子)のお弁当がものすごくおいしそうと言っただよ」と話してくれ、須藤さんは本当に嬉しく思いました。

野のゆりの理事で、「放課後デイサービ

ス みんなのそら」(山形県鶴岡市)管理者の平形洋司さんは「須藤さんは、家庭的な雰囲気や大事にされていて、食育にも力を入れていらっしゃいます。『須藤家のお袋の味として子どもたちに覚えてもらいたい、将来的に、これは須藤さんの家で食べた味だなあ』と言っような思いを持って、社会へ育ってほしい』と言う願いがある。一人ひとりの子どもたちにはそれぞれ、さまざまな事情があり、トラブルが発生することもある。それでも須藤さんは、そういったリスクのことも配慮しながら、支援に当たっている姿はいつもすごいと思っています」と話します。

「24時間・365日ファミリーホームをやって、子どもたちと一緒に暮らすことは、本当に充実しています」と須藤さん。

野のゆりは、今後3カ所目の障害者グループホームの開設も予定しており、ますます障害者支援の場を広げていきます。



ファミリーホームの看板犬、ココ

## 採用と教育研究所

saiyo to kyouiku kenkyujo

志ある中小企業経営者の応援団として「採用から共育」まで一貫した支援サービスを行っている。これまで数多くの社員、職員の採用・人財育成・職場定着等に携わり、CSR(社会貢献活動)を活用した「いい会社創り」のサポーターとして定評がある。



# YELL

## Vol. 31

2025年1月31日

発行：採用と教育研究所

〒960-8055

福島県福島市野田町 6-7-8

電話 024-529-5153

info@saiyoutokyouiku.com

